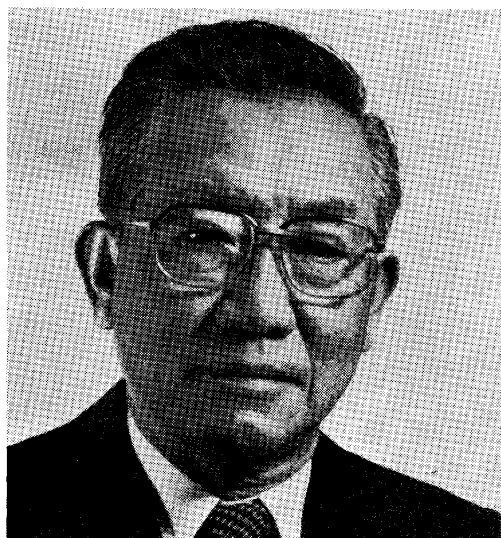


渡 辺 義 介 賞



日本金属工業(株)代表取締役会長
塚 本 富士夫 殿
わが国ステンレス鋼の進歩発展

氏は、昭和 16 年 12 月東京帝国大学工学部冶金学科を卒業、昭和 17 年 1 月海軍技術科士官に任官、終戦により退官、21 年 3 月日本金属工業株式会社に入社、38 年取締役相模原工場長、40 年同管理部長、43 年同建設部長を歴任、44 年常務取締役、48 年専務取締役、50 年 12 月代表取締役社長を経て、58 年 10 月代表取締役会長に就任し現在に至っている。

この間、一貫してステンレス鋼の研究、製造技術の開発・改善、品質の向上ならびに新鋼種の開発に携わり、後には、日本におけるステンレス鋼技術史を集大成するなど、卓越した先見性のもとに指導力を発揮し、わが国のステンレス鋼の技術を世界有数の水準に進歩発展せしめるのに広範かつ多大なる貢献をしている。

そのなかにあつても、AOD 精錬炉のステンレス鋼への適用は特筆に値する。氏は 46 年 AOD 精錬炉が高炭素廉価原料を大幅に使用できる可能性を有していることに注目し、日本で始めて導入設置し技術上の幾多の困難を克服し、その有効性を実証、その後の世界のステンレス鋼製造業における AOD 精錬炉設置ブームの先鞭をつけた。これは、ステンレス鋼製造史上、三大技術革新に数えられるほど、画期的なものであり、その設置により、今日ステンレス鋼生産の標準方式と称される『電炉—AOD—連铸方式』をいち早く確立、国際的な評価を受けた。つづいて 47 年には、これらの成果をもとに

初の 100% 連铸方式の量産型新製造所を衣浦に建設、世界の技術をリードした。

また、技術の国際交流を推進すると共に、日本におけるステンレス鋼の技術の発展を俯瞰・集大成し、今後の技術開発の指針とすべく、ステンレス鋼技術史を刊行した。

その他氏の功績は多分野にわたっているが、主なものを示せば次の通りである。

1. 長期的視野に立って、ニッケル資源を節減する目的と応力腐食割れ対策の目的をもって、耐食性、加工性にすぐれた高純度フェライト系ステンレス鋼の研究を推進し、その工業化に成功、この分野における需要開発に大きく貢献した。

2. 従来、チタン入りステンレス鋼の量産とくに連続鑄造は内部欠陥発生のため極めて困難なものと考えられていたが、氏はその将来性に注目し、技術的障壁を突破し、製造ノウハウを確立し、この分野におけるわが国の地位を築いた。

3. またステンレス鋼一貫生産工場の熱延鋼帯製造設備としてステッセルミルが経済性、品質面で優れていることを立証し、諸外国への技術指導を行つた。

4. 一方、研究分野においては、耐熱ステンレス鋼の基礎、応用研究を行ない、その性能向上に多大な寄与をし、昭和 37 年、東京大学より工学博士号を授与された。